

■初版第2刷をお持ちの方

頁・箇所	誤	正
p8 9) 引用文献	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 東京：照林社；2003. p3.」	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 東京：照林社；2012. pp4-5.」
p9 表1 (出典)	(Global Initiative for chronic Obstructive Lung Disease <GOLD, Date updated : 2009> 2)	( Global Initiative for chronic Obstructive Lung Disease <GOLD, Date updated : 2011> 2)
p10 2) 引用文献	Date updated : 2009.	Date updated : 2011.
p15 図7		(さしかえ)
p37 3行目	「また, GOLDの2009年 update では」	「また, GOLDの2011年 update では」
p42 サイドノート (追加)		<p>「MEMO」</p> <p>2011年に日本呼吸器学会によって医療・介護関連肺炎 ( nursing and healthcare-associated pneumonia : NHCAP) の診療ガイドラインが作成された. NHCAPの定義は, ①長期療養型病床群もしくは介護施設に入所している, ②90日以内に病院を退院した, ③介護を必要とする高齢者, 身体障害者, ④通院にて継続的に血管内治療 (透析, 抗菌薬, 化学療法, 免疫抑制薬等による治療) を受けている者に発症した肺炎であり, その主な発症機序は, ①誤嚥性肺炎, ②インフルエンザ後の二次性細菌性肺炎, ③透析などの血管内治療による耐性菌性肺炎 (MRSA肺炎など), ④免疫抑制薬や抗がん剤による治療中に発症した日和見感染症としての肺炎である.」</p>
p45 2) 引用文献	Date updated : 2009.	Date updated : 2011.
p50 図4	胸隔の変形所見	胸郭の変形所見
p58 表1	「急性憎悪」 「その他,」 「運動負荷テスト」 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 照林社；2003. p22」	「急性憎悪時」 「その他,」 「運動負荷試験」 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 照林社；2012. p31」
p59 表2	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 照林社；2003. p80」	(さしかえ) 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 照林社；2012. p134」

15 レクチャー理学療法テキスト『内部障害理学療法学 呼吸』正誤表-初版第2刷をお持ちの方

p67 1)	引用文献 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 東京：照林社；2003. p22, p80.」	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 東京：照林社；2012. p31, p134.」
p70	図 1 「運動療法. 照林社；2003. p3 <sup>1)</sup> 」	(さしかえ) 「運動療法, 第2版. 照林社；2012. p4 <sup>1)</sup> 」
p74	図 13 「運動療法. 照林社；2003. p25 <sup>1)</sup> 」 「a：ふつう息を吐くと、末梢気道がふさがってしまうために、空気が出にくくなる。 b：口をすぼめて息を吐くと、気道内が陽圧になり、末梢気道がふさがらず、呼気時間も延長するため、空気が十分に出て行く。」	「運動療法, 第2版. 照林社；2012. p36 <sup>1)</sup> 」 「a：ふつうに息を吐くと、末梢気道が閉塞するために、呼出が制限される。 b：口をすぼめて息を吐くと、気道内が陽圧になり、末梢気道の虚脱を防ぎ、呼気時間も延長するため、呼気が十分に行われる。」
p76 1)	引用文献 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 東京：照林社；2003. p3, p25.」	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 東京：照林社；2012. p4, p36.」
p102	表 3 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 照林社；2003. p18 <sup>4)</sup> 」	(さしかえ) 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 照林社；2012. p26 <sup>4)</sup> 」
p104	表 4 「コンプライアンスの低下」 「心疾患」 「抗うつや不安感の改善は大きい」 「コンプライアンスが維持されやすい」 「後期高齢者（75歳以上）」 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 照林社；2003. p33 <sup>4)</sup> 」	「患者のアドヒアランス低下」 「器質的心疾患」 「抗うつや不安感の改善効果は大きい」 「アドヒアランスが維持されやすい」 「後期高齢者-(75歳以上)」 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 照林社；2012. p48 <sup>4)</sup> 」
p106 4)	引用文献 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 東京：照林社；2003. p18, p33.」	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 東京：照林社；2012. p26, p48.」
p135	図 7 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 東京：照林社；2003. p3 <sup>6)</sup> 」	(さしかえ) 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 照林社；2012. p4 <sup>6)</sup> 」
p136	表 3 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 照林社；2003. p4 <sup>6)</sup> 」	(さしかえ) 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 照林社；2012. p7 <sup>6)</sup> 」
p140 6)	引用文献 「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法. 東京：照林社；2003. p3, p4, pp76-79.」	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法, 第2版. 東京：照林社；2012. p4, p7, pp130-134.」
p152 2)	引用文献 Date updated：2009.	Date updated：2011.